

非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の病理学的解析及び臨床病理相関

1999 年から 2016 年までに非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) 疑いのために腎生検を施行された患者さん

研究協力をお願い

日本腎病理協会では「非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の病理学的解析及び臨床病理相関」という研究を行います。この研究は、1999 年より 2016 年 6 月 6 日までに非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) 疑いのために腎生検を施行され、奈良県立医科大学または東京大学で診断のための解析をされた患者さんの腎臓の病態を病理学的に調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の病理学的解析及び臨床病理相関

研究期間：2017 年 1 月 17 日～2022 年 1 月 16 日

研究責任者：日本腎病理協会 副会長，日本医科大学 解析人体病理学 教授 清水 章

(2) 研究の意義、目的について

非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) は稀な疾患群です。主に補体の制御異常に起因する疾患ですが、これまでは aHUS 疑いの患者さんを系統的に診断する施設・方法はなく診断が困難でした。現在東大病院ではたんぱく質学的診断・遺伝子診断を実施することで、正確な診断・迅速な治療を行なう研究を開始しています。しかしながらたんぱく質学的・遺伝子診断のみでは aHUS の病態理解・診断法確立には不十分で、それには病理学的な解析が必要不可欠です。aHUS の病態や腎障害の程度や機序を検討するために腎生検が行われていますが、腎病理診断も難しく希少疾患であるために病態の理解・診断法確立のための十分な検討や研究がなされておられません。そこで今回、aHUS の病態を解明し、確実な診断や臨床所見との相関を明らかにするために、aHUS 患者さんの腎臓組織を対象にして病理学的検討を行ないます。

(3) 研究の方法について

1999 年より 2016 年 6 月 6 日までに非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) 疑いのために腎生検を施行され、奈良県立医科大学または東京大学で診断のための解析をされた患者さんの腎生検検体を病理学的に解析します。東京大学 腎臓・内分泌内科の南学正臣教授が研究責任者として進めている非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の診断・全国調査研究に登録され、施行された腎生検検体は日本腎病理協会を通じて日本医科大学解析人体病理学 (清水章 教授) へ委託し、光学顕微鏡・蛍光顕微鏡・電子顕微鏡的解析を行い、腎組織の形態像や腎臓への免疫グロブリン・補体の沈着、特殊染色や免疫染色を用いて病理学的な特徴を明らかにします。さらに臨床所見と病理所見との相関を検討します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

病理学的解析担当代表者：

日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授 清水 章

〒113-0031 東京都文京区根津 1-25-16 電話番号：03-3822-2131

内線：5255

メールアドレス：ashimizu@nms.ac.jp